

## ◎古加因中毒ノ一奇症

會員 飯森益太郎

古加因ハ近來局所麻醉藥トシテ、外科術上ニ應用スル  
 頻繁ナルカ故ニ、從テ其中毒ヲ實驗スル場合モ少ナ  
 キニアラス。然レモ余カ此ニ報告セントスル者ハ甚ダ  
 稀有ノ中毒症狀ヲ發シタル者ナレハ、一小實驗ナルニ  
 モ係ラス貴重ノ紙面ヲ汚ストセリ、

古加因中毒ノ輕症ナル者ハ頭痛、眩暈、惡心、歩行踉蹌  
 等ヲ來シ、重症ナル者ハ、人事不省ヲ發スヲアリ。シル  
 ビグク氏ハ一婦人ノ齶齒ヲ拔去センカ爲メ二十%ノ  
 古加因液六滴ヲ齒齦ニ注入セシニ、忽チ人事不省、眼瞼  
 開大ヲ來シ、網膜靜脈ノ貧血ナルヲ見タリ、蓋シ之レ腦

靜脈ノ收縮ヲ起シタルニ由ル。又リクチャー氏ハ神經痛患者ニ一二ノ古加因ヲ注入セシニ、患者ノ興奮舞蹈狀ノ運動ヲナシ、瞳孔散大シテ脈搏、亢進頭痛、眩暈等ヲ發スル者ヲ經檢セリ又一患者カ〇、三ノ古加因ヲ頓服シテ二十分後ニ胃瘳、惡心、頭痛、搖擗、視力減乏、兩脚不隨、言語不調等ノ症狀ヲ發シ次テ大ニ發汗シ全身虛憊シテ嘔吐ヲ發シ脈搏間歇シテ窒息ノ狀ヲ呈セリ。

以上述ヘタル所ハ、古加因ノ中毒症狀トシテ、通常成書カ示ス所ノ者ナリ、然レモ古加因ハ新藥ナルカ故ニ（比較的）其中毒症狀ノ如キモ、充分鑿索シ盡シタリト云フヘカラス、近來諸雜誌中ニモ屢々稀有ノ報告アルヲ見ル、現ニ本會雜誌ニ於テモ山崎氏カ抄譯セシ者ニシテ古加因ノ爲メニ癩癰樣ノ痙攣ヲ起シテ遂ニ死亡シ。又リチャルトソン氏カ經檢セシカ如ク、古加因液ヲ塗布シシテ色情的興奮ヲ來セシカ如キハ、稀中ノ稀ナル者ト

云フヘシ。

余カ實驗セシ患者ハ大島與次郎ト稱スル十六歲ノ一男子ニシテ、河北郡中原村ニ住ミ、農ヲ以テ業トス、生來健康ニシテ重症ニ罹リシヲナシ、只五歲ノ時間歇熱ニ罹リシト時々腹痛ヲ發セシヲアルノミ。

本年十一月二十八日、一東ノ薪木ヲ荷ヒ、羊腸タル山腹ヲ下ル際、誤テ顛倒シ右手ヲ以テ身体ヲ支ヘントセシニ、折惡ク地上ニハ竹ノ斜斷シタル者アリテ、同手ノ第二ト第三ノ掌骨間ヲ貫キ、手背ノ皮下ニ突隆セリ、患者ハ驚テ之レヲ抜カントセシニ、竹ハ手掌ニ近接セル處ニ於テ折レ、其一片ハ手ノ内ニ殘レリ。

歸宅後母親ヨリ、之レヲ抜き去ランヲ勤メラレシト雖モ、疼痛ノ甚シカラント恐レテ放置セリ、然ルニ十二月十日頃ニ至リ、手背ノ膨隆腫起赤色ヲ呈シ疼痛アリ日ヲ經ルニ從ヒ増劇セシヲ以テ本院ニ治ヲ乞フト云

フ、  
 之レヲ檢スルニ右手背ニハ第二掌骨間腔ニ當ル部ニ於テ  
 著シク赤色腫起ヲ呈シ己ニ化膿セル部アリ、指ヲ以テ  
 觸ル、ニ尙ホ竹片ノ存在スルヲ認ム、手ヲ翻シテ掌面  
 ナ檢スルニ竹片ノ竄入セシ跡アリト雖、少シモ竹片  
 ナ觸レス、依テ背側ヨリ切開センヲ企テ、患部ニ十  
 %ノ古加因液一筒ヲ注入シ(通常外科ニハ三—五%ノ  
 者ヲ用フルト雖、此時ハ折惡ク稀薄ナル液ナカリシヲ  
 以テ少シク強シト承知シナカラ横着ニモ之レヲ用ヒシ  
 ナリ)ニ仙迷斗縦切シテ、竹片ヲ摘出シ法ノ如ク防腐帶  
 ナ施シ終リ、患者正ニ歸路ニ就カントシ、廊下ヲ步行ス  
 ル際、俄カニ身体ノ輕キ覺エ、手ヲ振り足ヲ聳テ、躍ル  
 カ如ク舞フカ如ク頻リニ口ヲ動かシテ甚九(歌ノ名)ヲ  
 歌ヒ、或ハ母ニ迫テ歸宅ヲ促シ、或ハ末寺前ノ石屋ニ至  
 テ酒ヲ吞マンヲ乞ヒ、或ハ自ラ天狗ナリト稱シ空中

ヲ走ルカ如キ模擬ヲナス、此ノ如ク舉動ノ頓ニ一變セ  
 シヲ以テ患者ノ母ハ大ニ驚キ再ヒ診察所ニ來リテ涙ナ  
 カラニ診ヲ乞フ。

患者ノ顔貌ハさよろ／＼然トシテ打附カサルカ如ク喃  
 ヲトシテ跡形モナキヲ喋リ頻リニ手足ヲ動搖ス、呼  
 吸二十七脈百二、其質弱ク、瞳孔ハ左右共ニ同大ニシテ  
 終始變化ナク運動、知覺ニハ違常ヲ認メサリキ。

患者ノ舉動ヲ注目スルニ頻リニ四肢ヲ動カシ又空中ニ  
 火衣ヲ着タル佛樣アリト云ヒ(幻視)或ハ南無不可思議  
 光ノ御經ヲ續ミ或ハ當日晴天ナリシモ霰降り大雨車軸  
 ナ流スカ如シト云フ(幻聽)又タ試ミニ其母ヲ指シテ誰  
 ナリト問ヘハ忽チト者ヲ氣取リテ富山縣人ナリト答ヘ  
 暫クシテ漸ク氣付タルカ如キ顔ヲナシ否ナ富山縣人ニ  
 アラス之レ八卦ノ誤ナリト云フ、又此處ハ何處ナリト  
 問ヘハ金澤病院ナリト答ヘ此様ナ立派ナ處ハ唐、天竺

ニモ無シト云フ。

右ノ如キ症狀ヲ發シタルハ古加因注射凡ソ十分後ニシテ一時間斗持續セシカ、同日午後四時頃ニ至リ稍々安靜トナリ、顔面少シク潮紅脈八十六ヲ算シ、精神元ニ復ス此ニ於テ佛樣ノ事、霰ノ事、ヲ問フモ嘗テ覺エナシト云ヒ母ヲ指シテ、誰ナリト問ヘハ微笑シテ母ナリト答フルニ至レリ

同日ハ病院ニ宿泊セシメ其夜、回診ノ際檢セシニ更ニ常人ニ異ナルコナク摘出シタル竹片ヲ詠メツ、母ト共ニ爐ヲ圍テ談話セリ、

以上述ヘタル處ノ要領ヲ摘記スレハ

(一)古加因(○、一)注入后十分ニシテ著シキ興奮症狀ヲ發シタルコト

(二)視器、聽覺ニ於テ「ハルチナチオン」ノアリシコト

(三)中毒中ハ精神作用一部ハ確實ニシテ一部ハ錯乱セ

(論說及實驗)

金澤醫學會雜誌

シ

(四)中毒症狀ハ睡眠等ナクシテ二時三十分、後ニ全ク回復セシ

(五)脈搏呼吸ノ増加セシ

## 抄 錄

### ◎胃ノ癌腫ニ於ケル胃加答兒

(Ztschr. f. Heilk. XII. 1891, S. 217)

四〇三氏ハ十五人ノ胃癌腫ニ就テ病理上ノ變化ヲ試驗シ左ノ如キ成績ヲ得タリ蓋シ内六名ハ幽門ニ於テ、五名ハ噴門ニ、三名ハ小灣ニ一名ハ大灣ニ於テ生セシ者ナリ

表面ノ上皮ハ常ニ變化ヲ蒙リテ或部分ニ於テハ全ク欠損シ間組織ハ常ニ炎症ヲ有シ多少増加シタル小細胞ヲ以テ侵潤セラレ結締組織ノ新生ヲ見ル

第三卷第二十六號

(五百十二)